修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）6－36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
（財団法人　全国修学旅行研究協会の趣意書から）

東海三県・関東地区中学校
修学旅行委員会　総会を開催

各地の中学校修学旅行委員会は、五月末の近畿地区（既報）を皮切りに、六月中旬には東海三県・関東地区でそれぞれ総会を開催し、本年度の役員、事業計画などを決めた。

委員長に佐藤敏文氏
東海三県中学校修旅委

東海三県中学校修学旅行委員会（荻原克巳委員長・春日井市立中部中学校長）は、六月十三日本年度総会を名古屋市教育館で開催した。

荻原委員長のあいさつのの、昭和六十三年度庶務・会計報告を行い、本年度の委員長に佐藤敏文氏、運営委員に奥山栄司氏以下別記の委員を選出した。

続いて本年度予算案を審議し、今春の修学旅行の問題点、JR東海への要望等意見を交換して、今後の協力・発展を申し合わせ、閉会した。

役員名は次のとおり。

（各中学校長、敬称略。◎印は県代表、○印は部代表）

委員長＝◎佐藤敏文（愛知県・岩倉）運営委員＝◎奥山栄司（三重県・芸濃）委員＝≪愛知県名古屋≫柳沢伸郎（振甫）木村武則（神丘）○和田恢（新郊）水野明（鳴子台）≪同県尾張≫○大脇英男（西枇杷島）二ノ宮鉄弥（甚目寺）≪同県三河≫○荻野良雄（城北）壁谷安之（青陵）≪岐阜県≫◎高木正義（興文）渡辺宏（精華）、臼井美恵子（岐阜・校長会事務局）≪三重県≫荒木務（西橋内）野村定男（津・修学旅行研究会事務局）

事務局＝今井幸男（全修協）

会長に木村　一氏
関東地区公立中学校修旅委

関東地区公立中学校修学旅行委員会（成石昌蔵会長・前川越市立川越第一中学校長）は、平成元年度総会並びに第二回研究協議会を、六月十六、十七の両日群馬県水上町で開催し、昭和六十三年度の事業活動の総括、平成元年度事業計画・予算・役員等の決定を行った。

成石会長のあいさつ（別掲）に続いて、顧問の㈶全修協山本理事長が、関修委設立の礎となった群馬県関係者の功績を語り、関修委の一層の発展を期待するとあいさつした。

会議は先ず昭和六十三年度の会務報告、会計決算並びに監査報告が承認されたあと、木村一会長（千葉県茂原市立茂原中学校長）以下の新役員を選出した。

次いで協議に入り、平成元年度事業計画案、収支予算案を満場一致承認決定し、続いて山本理事長から、成石昌蔵氏ほか十九人の退任役員に感謝状が贈られ、永年の功績がたたえられた。

第二日目は、東京電力の奥利根電源PR館・地下発電所と上越クリスタルガラス工場を視察して研修を深め、二日間にわたる日程を終了した。

感謝状を山本理事長から贈呈

役員名は次のとおり。

（各中学校長、敬称略）

会長＝木村一（千葉・茂原）副会長＝飯塚秀雄（茨城・赤塚）柿沼敬二（栃木・宮の原）八木原勝司（群馬・前橋五）大原茂（埼玉・本太）運営委員長＝山口明（埼玉・蓮田）運営副委員長＝井桁孝（千葉・習志野二）事務局長＝佐藤時昭（千葉・栗ヶ沢）会計委員＝影山長八（栃木・陽北）糸賀英一（㈶全修協）監事＝清水保男（茨城・水戸五）見城孝司（群馬・新治）顧問＝山本種一（㈶全修協）参与＝前田寛（同）事務主幹＝糸賀英一（同）各県運営委員＝≪茨城県≫大賀寿之（台原）青水利次（土浦一）高橋英夫（下館西）≪栃木県≫青柳蔚（国本）高橋勝二（真岡東）菅沼基訓（乙女）菊地治夫（足利三）≪群馬県≫竹内進（沼田西）田中健二郎（渋川）都丸省三（中之条西）武藤栄（川内）≪埼玉県≫布目雅之（蕨東）町田克巳（行田西）岡田貢（越谷北）栗原利夫（武蔵台）木村高尾（上福岡三）安川利夫（三ヶ島）長塚竹雄（白幡）内田真（上青木）武井公男（朝霞四）佐伯明志（花栗）瀬田良宏（片柳）笠原栄一（別府）柴岡隆（荒川）長谷川典明（神泉）早川長三郎（川島）≪千葉県≫松井秀雄（南行徳）築比地宗彬（白井）北川博（松戸六）根本忠夫（小金南）≪㈶全修協≫中島和友、稲葉幸雄、澤田克郎

〈総会開会あいさつ〉

新年度のすばらしい第一歩
関東地区公立中学校修学旅行委員会会長　成石昌蔵

本日は、平成元年度総会並びに第二回研究協議会を開催いたしましたところ、多数の皆様の御参集をいただきまして厚く御礼申しあげます。

さて、わが関東地区公立中学校修学旅行委員会は、関東五県の中学校長会の代表によって、重要な学校行事である修学旅行を、安全かつ有意義に実施するための理論と実際を研究する会であり、昭和三十八年結成以来、専用列車の創設、特急料金の割引、修学旅行国庫補助金の増額、各県の連絡調整、更には研究調査、研究発表大会等々数多くの成果を積み重ねて今日に及んでいるわけでございます。

先輩の皆様方、特に本日御臨席をいただいております全修協の山本理事長さんには、創立以来の並々ならぬ御苦労をいただき、また現在の会員各位の絶大な協力のもとに、営々として築かれ、そして引き継がれて、二十五年余の歴史を誇るものでありまして、この関修委の存在意義を、私たちはあらためて確認しあい、私どもに課せられた問題にどう対処すべきなのか、中学校教育の原点に立ち戻って、思いを新たにいたすべきときと存ずる次第であります。

修学旅行もその時代の教育界、社会情勢の変化に影響され、そのときどきに改善と創意工夫を図っていくことが大切であり、本年は特に三月に新学習指導要領が告示され、新しく「旅行・集団宿泊的行事」として位置づけられ、集団生活への適応、自然や文化とのふれあい、健康・安全の確保、奉仕や勤労の精神の涵養などが重視されております。しかしながら中学校の現状は、産業、経済の発展にともない物質の豊さに反して心の貧しさが目立ち、中学校教育を取りまく環境はきびしいものがあり、学力格差、進学競争、非行問題、いじめ、登校拒否等があげられます。このような現状の中で、校外学習の場としての修学旅行を、いかに適切に対処し、積極的に企画、実践するか、そして、それによって揺れ動く青年前期の中学生に、豊かな心とたくましく生きる力を育成し、たしかな人生の生き方を与えねばならない大きな使命と責任を感ずるものであります。

更に、全国のすべての中学校が全校あげて教職員が共通理解のもと協働的に日夜懸命に努力をしているのが現状であり、そのたゆまぬ精進に心から敬意と感謝を表したいと思います。

昨年度は、役員、会員の皆様の御協力と連携により円滑な流れの中で所期の目的を達成しておわることができましたことを、心から感謝申しあげるとともに、全修協の先生方の御指導、御援助に対して皆様とともに御礼申しあげたいと存じます。

本日のこの総会、研究協議会が成功裡に終了し、新しい会長はじめ役員によって、すばらしい第一歩が踏み出されますよう期待し、皆様の御協力を心からお願いいたします。

おわりに、本会開催にあたって準備・運営等にお骨折りいただいた群馬県中学校長会並びに修学旅行委員会の先生方ほか、関係の皆様に厚く御礼申しあげ、あいさつといたします。

（前埼玉県中学校長会長・川越市立川越第一中学校長）

◇

なお、この総会をもって、成石昌蔵氏は関東地区公立中学校修学旅行委員会の会長を退任され、後任には木村一氏が選出されました。（編集部）

第四回全修協修学旅行セミナーのお知らせ

財団法人全国修学旅行研究協会が独自の研究構想にたって、修学旅行に関する諸問題についての研究を深めるため、昭和六十一年から開催している「修学旅行セミナー」第四回を、次の要領によって開催します。

1 主催　財団法人全国修学旅行研究協会
2 後援　文部省（申請中）
3 期日　平成元年九月十二日（火）
4 会場　愛知県勤労会館
5 テーマ　これからの教育の方向と今後の修学旅行
6 内容
(1)理事長あいさつ・主旨説明
(2)講演「学習指導要領改訂の経緯」文部省初等中等教育局教科調査官　高橋哲夫氏
(3)研究協議・質疑応答
(4)記念講演「何をどう書くか」中日新聞論説主幹　小柳津健氏

世界デザイン博開幕前の視察研修会を実施
主催　全修協

世界デザイン博覧会は、七月十五日から十一月二十六日まで名古屋市において開催されるが、開幕に先立ち、財団法人全国修学旅行研究協会主催による博覧会視察研修会が七月三日午後実施された。

研修会には東海三県の専修学校・各種学校五十一校から百三名の教職員が参加し、完成間近の名古屋港会場及び白鳥会場を視察、㈶全修協成瀬幡治理事のあいさつと㈶世界デザイン博覧会協会西谷斉観客誘致部課長の説明を聞いて、博覧会見学に対する認識を深めた。

新潟県支部長に大浦俊一氏

㈶全国修学旅行研究協会の新潟県支部長に、六月一日付で大浦俊一氏が就任した。

大浦氏は新潟第二師範学校卒業。新潟県内の小・中学校教諭、新潟大学附属中学校教育事務所長、県内小・中学校長を歴任し、昭和六十二年から㈶新潟県教職員厚生財団常務理事、本年六月から同財団理事長の要職にある。

風紋

閑さや岩にしみ入る蝉の声……芭蕉が「奥の細道」に旅立って三百年、本の出版を始め記念事業が目立つ。「奥の細道」を訪ねるプランを最初に実施したのは当協会だ。教職員にそのユニークさと質的高さで喜ばれた。今年は久しぶりで復活、好評だ▼築城ブームでもある。八市で天守閣などの復元が始まる。構想を含めると、三十一自治体にも及ぶ。また、地方博も盛んで十六市が開催する。ほかにも国際色豊かなもの、タイムカプセルの埋設などがあり、東北六市では八月に小・中学生がJR貸切列車で相互訪問して交流を深めるという▼今年は市制施行からちょうど百年を迎え、全国三十九都市では記念行事や事業に創意工夫をこらしている。何事によらず、何年かの節目ごとに過去の足跡を振り返り、見直すことは意義あることだ。海外でも、フランス革命二百周年やエッフェル塔百周年記念のイベントが盛んである▼一方、「花の万博まであと×日」という表示が、大阪の各所に掲げられている。また京都の烏丸二条には、「二十一世紀まで×日」というデジタル表示まで現れた。七月一日現在その数字は四二〇二を示している。それを見る人々の受け止め方はまちまちだが、将来展望の大切さを示唆しているような気がする▼記念事業も単なるイベントに終らさず、「ふるさと創生」事業と相まって、地域の活性化に役立てたいものだ。修学旅行も二十一世紀をめざす将来展望が大切ではないか▼夏休みが来る。蝉しぐれを聞く日も近い。（北）

信頼される旅づくり

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いながらも、生徒ひとりひとりの心に輝く想い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

ツーリストの修学旅行。

近畿日本ツーリスト　本社　〒101 東京都千代田区神田松永町19-2
支店／国内250店（登録）／海外15店　㊀運輸大臣登録一般旅行業第20号

新学習指導要領について の解説 (5)

生徒指導と特別活動・修学旅行〈63〉

文部省教科調査官　高橋哲夫

前月号では、現在全国五か所で実施されている中学校学習指導要領講習会の資料の概要を紹介したので、今回から、前々回に続けて、新しい学校行事の内容についての解説を試みることにしたい。

六、学校行事の特質

特別活動における学校行事のねらい、趣旨や性格、指導の方法、生徒の活動の形態など特質はどのようなものであるかについて考えてみたい。

(1)多彩な内容を持つ総合的、体験的な活動である。

この特質は、次のように分けて考えることができる。

ア、体験的な活動である。

特別活動の各内容における生徒の活動そのものの特質は自主的、実践的な活動であるが、更にその内訳を考えると、学習指導要領に「学校行事においては、……体験的な活動を行うこと」と示されているように、体験的な活動である。

各種類の学校行事への参加を通じて人や自然、歴史や文化に直接触れることにより、人間としての生き方を学び自己の人間形成に役立てることになる。集団宿泊や修学旅行、奉仕にかかわる活動などすべての活動が体験活動である。

イ、多彩な活動である。

学校行事は、儀式的、学芸的、健康安全・体育的、旅行・集団宿泊的、勤労生産・奉仕的行事の五つの種類から構成されているように、多種・多彩な内容であり、またそれだけに生徒の活動も多彩である。

また、日常の定型化している学校生活に変化と色彩を与えることによって、生徒や教師にうるおいや心のゆとりをもたらすことにもなる。遠足や修学旅行はその代表的なものであるだろう。

ウ、総合的な活動である。

学校行事は、五つのうちのどの種類でも教育課程の三領域の全体にかかわるものであり、生徒にとっては、各教科、道徳及び特別活動のすべてにおいて日頃学習した成果を生かすとともに、それらを総合し、発展させることによって新しい学習活動を創造することができるのである。

(2)学校生活をより豊かにする活動である。

ア、学校生活を豊かにする活動である。

ややもすれば単調になりやすい学校生活に変化、色彩、折り目を与えることの意義は大きい。

イ、居がいや生きがいを得られる活動である。

学校行事に生徒がそれぞれの個性や能力等を生かして参加することによって、成就感や充足感、居がいや生きがいを体験的に得ることができ、豊かな学校生活を送ることができる。

(3)より大きな集団による活動である。

ア、幅広い人間関係を通して社会性を養うことのできる活動である。

学校行事は全校又は学年などの大きな集団の単位による実践的な活動なので、通常の学級中心の生活では得られない社会性を身につけることができる。

イ、愛校心を育てることのできる活動である。

学級や学年の差を越えて協力しあい活動することにより、集団への所属感や連帯感などを培うことができ、学校や地域、更には国を愛する心を育てることができると考えられる。

ウ、望ましい集団行動の在り方を体得できる活動である。

より大きな集団における活動を通して集団生活に必要な基本的な行動様式を身につけることができる。

(4)学校行事への参加・協力を通しての自主的、実践的な活動である。

ア、学校行事への参加や協力による活動である。

「学校行事」は文字どおり、学校が計画し実施する行事であることを意味するが、学習指導要領におけるそれは、特別活動の一内容として、特別活動の目標を達成するための学校における行事であるといえる。

つまり、学校において計画的に実施される行事への参加や協力を通じての生徒の活動が、特別活動の「学校行事」であり、特別活動の他の内容と質的に異なる点に留意したい。

イ、参加や協力を通じての自主的、実践的な活動である。

学校が計画し実践するのではあるが、特別活動の一内容、すなわち生徒の活動の内容の一つであるのでも、参加・協力ではあっても、生徒の自主的、実践的な活動が不可欠である。

学校行事の種類及び種類ごとの各行事内容の特質に応じて、例えば行事の内容のある部分は生徒が自主的に計画を作成して活動することの指導・援助を行うなど、生徒が積極的に自らをかかわらせて参加し協力できるようにしたい。

委員長に佐々木氏を三選
近畿中学校長会修旅委

【関西支局】近畿中学校長会修学旅行委員会は六月十九日大阪において本年度総会を開催した。昭和六十三年度事業報告並びに決算報告の後、佐々木達三氏（京都府長岡京市立長岡第四中学校長）が委員長に三選され、平成元年度事業計画と予算を決定した。

本年度の役員は次のとおり。

（各中学校長、敬称略）

委員長＝佐々木達三（京都府・長岡四）副委員長＝土居克己（兵庫・大社）上野和平（大阪市・桜宮）安場明彦（京都市・樫原）委員＝福田浅男（大阪府・太子）筒井一雄（神戸市・飛松）簑野昌治（奈良・桜井）辻本光昭（奈良・曽爾）大橋滋（滋賀・日吉）高橋喜吉（滋賀・鳥居本）坂口全彦（和歌山・加太）貴虎律夫（和歌山・日高）

なお、席上、消費税についての説明があった。

要望事項として、○教師の新幹線運賃を生徒並み（五割引き）にしてほしい○西行き新大阪～長崎間の乗継改善、将来直通を希望○船との結合を学校の希望どおりにしてほしい（往＝新幹線・復＝船と往＝船・復＝新幹線がアンバランス、逆コースにならないようにとの希望）○一学期中に集中すると質の低下をきたすので期間を長くしたらどうか（秋にも）、検討を要する。

平成元年度活動日程予定＝六月委員会総会、七月ダイヤ協議、八月現地視察（大分県・別府市）九月JR・関西汽船と協議、十一月申込書作成（平成三年度）、十二月申込書発送、平成二年一月申込書締切り、二月輸送計画作成（抽選会）、三月各校の出発日発表の予定。なお適宜役員会を開く予定。

修学旅行に際しては事前指導の徹底を
京都府警察本部から

毎年百数十万人の修学旅行生が訪れる京都の府警察本部から、今年も「修学旅行の手びき'89」が発行された。

これによると、昭和六十三年中に修学旅行生による事故等で、府警察による補導等の集計は左記のとおりで、特に例年にない事件として、五月十九日、嵯峨野で班別行動中の六名の中学生が、単車で後をつけてきた暴走族風の三人組に恐喝され、現金約二万五千円をとられた件があげられている。

各学校に対しては、事前指導の徹底と、問題や事故が発生した場合には、直ちに「一一〇番」へ通報するように注意を促している。

補導等の状況（昭和63年中）

中学生〈　　高校生〈

●非行等

暴力行為	5人	飲酒	3人
暴行	1人	窃盗	3人
喫煙	2人	喫煙	20人

●被害

暴行	2人	暴行	9人
恐喝	8人	傷害	1人
窃盗	1人		

●その他

自損転倒	1人	交通事故	1人
		転落死	1人
		食中毒	96人

紀勢線と四国各線でダイヤ改正　JR

JR西日本とJR四国は、紀勢線及び瀬戸大橋線・四国各線で七月二十二日から大幅なダイヤ改正を実施する。

紀勢線では、天王寺発着の特急「くろしお」の一部を京都、新大阪発着として、新幹線などとの不便な乗り換えを解消するほか、パノラマ式新型車両も投入する。

瀬戸大橋線では、岡山県内の一部複線化完成により、高松～岡山間のマリンライナーを日中三十分ごとに統一、予讃線、土讃線の岡山直通特急を増発する。また、七月一日から予讃線、土讃線の夜行列車をバスに転換し、四国内の夜行列車は全廃された。

このほか、JR北海道の札幌近郊で七月一日から、JR東海の名古屋近郊で七月九日から、それぞれダイヤ改正が実施されている。

暑中お見舞申しあげます

平成元年　盛夏

財団法人　全国修学旅行研究協会

理事長　山本種一
常務理事　村山助雄
同　高田治郎
同　鈴木力
理事　成瀬幡治
同　魚谷時太郎
同　岡木清
同　野尻高経
同　梅沢茂
監事　田尻一雄
同　西山文男
評議員代表　白滝末紀
参与　芦田重左衛門

本部事務局長　前田寛
大阪事務局長　大友恭
職員一同

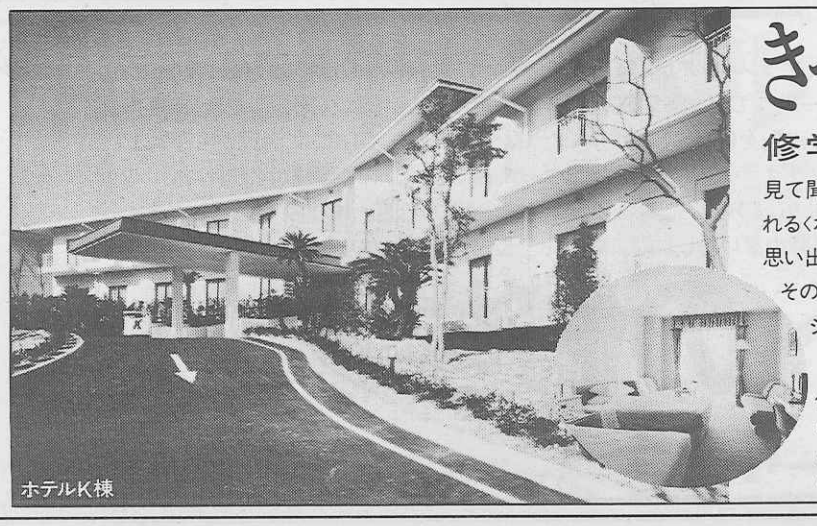
とびだせ自然へ
緑の箱根へ

〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)
箱根高原ホテル

さわやかな奥日光の高原で素晴しい
修学旅行の一夜をお過し下さい。

そのほか
冬期はスキー教室
夏期は林間学校

奥日光高原ホテル
〒321—16
日光市湯元2549—6
(TEL) 0288—62—2121代表



きっと、思い出いっぱいの旅になる。

修学旅行は、鈴鹿サーキットで体験学習。

見て聞いて、触れて学ぶ。ためになる体験をしたら、宿泊はリゾート感覚あふれる〈ホテルK棟〉をご利用ください。魅力的な施設・サービスが修学旅行を思い出深いものにします。学校団体用SPECIAL PRICEにてお待ちしています。
そのほか、北欧風のD棟・E棟・G棟・J棟、団体でのお泊りに便利なビレッジF棟など多彩な宿泊施設もご利用ください。

▲横G体験が新しいサイドフォース カート（モートピア）

体験学習のご案内
●エンジン教室●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●モートピア●モータースポーツ観戦●地曳網
●潮干狩●伊勢形紙彫り●茶摘み●テーブルマナー 他

お問い合わせ・お申し込みは——
鈴鹿サーキット
修学旅行課　〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎(0593)78-1111